

第 56 回 全道へき地複式教育研究大会 空知大会に向けて

空知へき地・複式教育研究連盟研究部長 杉野幹夫

はじめに

昨年秋には、道へき・複連、空知教育局、各市町教育委員会、そして、道へき・複連加盟校の皆様の特段のご支援・ご協力をいただき、第 56 回全道へき地複式教育研究大会の空知プレ大会を開催し、無事終了することができました。全道・管内各地より 600 名を超える多数の会員の参加を得ることができ、研究協議では、皆様方より研究の深化・充実に向けた貴重なご助言・ご意見をいただき、心より感謝とお礼を申し上げます。

本連盟では、全道のへき地複式教育の充実・発展に寄与できる研究実践を確立するため、大会実行委員会を中心に、会場校はじめ管内加盟校との連携を強化し、本大会成功に向けて準備を進めています。

1. プレ大会の成果と課題

空知プレ大会は、昨年 9 月 22 日の夕張小・夕張幌南小、芦別常磐小、深川多度志小を皮切りに、11 月 10 日の新十津川花月小まで管内 10 分科会 9 会場において開催しました。

その成果として、

- (1) 教職員の研究意識の高揚が見られ、研究課題の解明に向けた、計画的・組織的な研究を推進することができた。
 - (2) ブロックごとに実行委員会が組織され、会場校を中心とした共同研究体制や協力体制が確立し、研究の深化に結びついた。
 - (3) 空知教育局、各市町教育委員会などの関係機関との連携のもと、研究の具体的推進を図り、円滑な大会運営ができた。
- また、課題としては、
- (1) 道へき・複連の第 7 次長計との関連をより明確にし、焦点化を図りながら全道のへき地複式教育に寄与できる実践を確立すること
 - (2) 多数の会員の参加による実践交流を通して、研究協議の活性化を図り、研究の深化・充実に関わり続けること

2. 空知大会の位置づけ

第 56 回全道へき地複式教育研究大会空知大会は、道へき・複連の第 7 次長期 5 年研究推進計画の実践検証整理期に当たります。これまでの実践検証期の課題や研究を継承し、その成果の累積と還流を図ると共に、第 8 次長計に向けた発展的な課題を明確にするための極めて重要な大会であると考えます。

そこで、本連盟では、空知大会を次のように位置づけ、企画・運営しています。

- 第 7 次長計の実践検証整理期として、研究の成果と課題を集約・累積・整理し、第 8 次長計へ発展的な課題を明確にする大会とする。
- 管内の地域課題を踏まえ、家庭や地域社会と連携しながら「豊かな心」を育てる特色ある学校づくりをめざす大会とする。
- 個に応じた教育の一層の充実を図り、児童生徒一人一人に「確かな学力」を身につけさせる授業の創造をめざす大会とする。
- ブロック内の共同研究をより一層進め、日常の教育実践の充実を図る大会とする。

おわりに

第 56 回空知大会は、「緑の大地に生きる空知の子らに豊かな心と確かな力を」を大会スローガンに、この空知の地で 9 月 20・21 日の 2 日間の日程で開催いたします。

旧産炭地の多い空知は、戦後のエネルギー産業を支え、稲作や畑作などの農業を中心に発展してきましたが、時代の流れと共に産業構造の変化により過疎化が進み、少子化などの影響もあって、地域の衰退や学校の統廃合が進んでいます。しかしながら、空知には、これまで私達の生活を支え、豊かな生命を育ててくれた緑の大地があり、今尚、その大地にたくましく生きる人々の姿があります。このような時代だからこそ、郷土に根を張り、郷土に誇りと自信をもって、たくましく郷土の未来を拓く子どもの育成が期待されます。

つきましては、本大会での全道の貴重な実践の交流が、へき地複式教育の充実・発展に関わりつくと考えますので、全道各地より多くの会員の皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。